

第3回地域・スポーツ振興賞受賞作品概要		
最優秀賞	タイトル	八幡（やはた）川リバーマラソン大会
	応募者	八幡川リバーマラソン大会委員会（広島県広島市佐伯区）
	<p>作品の概要</p> <p>佐伯区は広島市の最西部に位置し、人口は約137,000人。古くは西国街道が通り、塩田による製塩が盛んであったこともあり、現在も商業、工業などの多様な都市機能が集積している。市街地を二級河川の八幡川が瀬戸内海に注ぎ、水鳥が多種・多数飛来するなど恵まれた自然環境を有している。八幡川リバーマラソン大会は、選手が川の中を、水しぶきをあげて走る全国的にも珍しいマラソン大会で、「きれいなまちは、きれいな川から！」のキャッチフレーズのもと、大会前に実施する河川一斉清掃（河川クリーンキャンペーン）と合わせて、市民と行政が協働で企画・運営しており、昭和59年に第1回を開催し、平成22年度の大会で27回を迎えた歴史のある大会。</p> <p>参加種目は、小学3・4年生の部(0.5km)から50歳以上の部(1.5km)、一般男子の部(3.0km)などの個人競技と、6人で襷をつなぐリバーリレーなど11種目あり、川の中に設定されたコースを八幡川の自然を満喫しながら走ることがこの大会の大きな特徴で、会場には約2000名の観客が詰めかけ熱い声援を送っている。また、地域団体・地元企業のボランティアが河川内の空き缶、ビニール袋等のごみを回収している。全国的な知名度も高くなっており、毎年県外からの参加者も多くなってきている。</p>	
優秀賞	タイトル	「ヘルスツーリズム」の取組みによる観光宿泊客のアップを目指して！！
	応募者	蒲郡市観光協会（愛知県蒲郡市）
	<p>作品の概要</p> <p>サブテーマは、「ノルディックウォーキング」と「グラウンド・ゴルフ」による「食と健康のがまごおり温泉郷」を目指し、宿泊客のアップによる地域活性化を図る。目的は、1. 市長マニフェストの実現～『観光宿泊客の2割アップ』～ 2. ニューツーリズムによる新たな旅行需要の創出 3. 蒲郡観光のテーマ『3K』:①観光(Kanko) ②健康(Kenka) ③環境(Kankyo)。実績はノルディックウォーキング大会、グラウンド・ゴルフ大会である。ノルディックウォーキング大会は、2009年に蒲郡市制施行55周年を記念し、第1回大会を開催、2011年3月には第5回大会を予定。ポールの数に限りがあり、毎回200名の募集に対し、応募者は定員を大きく上回って抽選となる。グラウンド・ゴルフ大会は、2010年9月に「竹島ベイパーク」がオープンし、「年中温暖な蒲郡で、三河湾の海を眺めながら親しい仲間とプレーして、夜は温泉で疲れを癒す！！」をキャッチフレーズに健康な中高年を対象に実施。10～12月の3ヶ月の利用者数は延べ6,300人。</p>	
優秀賞	タイトル	日本一のチームを通じた地域活性化（リンク栃木ブレックス）
	応募者	株式会社 リンクスポーツエンターテインメント（栃木県宇都宮市）
	<p>作品の概要</p> <p>リンク栃木ブレックスは、日本バスケットボールリーグ（JBL）所属のプロバスケットボールチーム。2007年に「地域密着」を運営理念として設立。プロスポーツ不毛の地と言われ続けていた栃木県（宇都宮市）を拠点として活動し、栃木県、北関東エリア（群馬県、茨城県）と南東北エリア（福島県）の各体育館でホームゲームを開催。1年目はJBL2部機構で優勝。2年目はJBLに昇格して5位。チーム創立3年目で日本一を達成。スポーツエンターテインメント（みるスポーツ）で栃木県、北関東、南東北を活性化することを目指している。目標は、いついかなる時も「強く愛されるモチベーションあふれるチーム」であり続けること。マイナースポーツ（バスケ）を短期間（3年間）で日本一に押し上げた会社として黒字化に成功した、という事実に対して我々は情報開示、今後同様の球団設立や運営に大いに役立てて欲しい。価値を生み出し拡大再生産するためには、収支の黒字化は営利・非営利を問わず必須。「勝利や上位を目指す」ことが目的で地域を盛り上げ、さらに魅力あるチームをつくらせてゆくことができると考えている。</p>	

佳作	タイトル	やさしい共生社会を体験する「ピポ・ユニバーサル駅伝」
	応募者	NPO 法人 コミュニケーション・スクエア21（東京都新宿区）
<p>作品の概要</p> <p>「ピポ」とは、カバと小鳥の共生関係を表したシンボルマークの愛称。共に助け合いながらやさしい共生社会をめざしたいという願いが込められている。この駅伝は、選手・ボランティアの別なく、支えあいの楽しさを体験するユニバーサルスポーツである。車いす利用者・ハンディキャップパーソン・小学生・65歳以上・フリースタイルの5人の選手と、チームリーダー2名、伴走ボランティア3名の合計10名が1つのチームを組みタスキを繋いでゴールをめざす。勝敗はスピードを競うのではなく、目標タイムレース（1区・約1km：5区間）である。予め決められた目標隠しタイムに一番近いチームを1位とするもので、毎年楽しく走る姿が見られる。2002年に第1回を都立戸山公園で開催し、2010年9月の国立霞ヶ丘競技場の第9回大会まで開催。毎年、ダスキン・アジア太平洋障害者リーダー育成の研修生（障がい当事者）が参加し、国を超えた交流が繰り返される他</p>		
佳作	タイトル	奥びわ湖スポーツクラブ
	応募者	奥びわ湖スポーツクラブ実行委員会（滋賀県長浜市〈旧伊香郡西浅井町〉）
<p>作品の概要</p> <p>「奥びわ湖スポーツクラブ」は、びわ湖の北の4,500人の小さな町（西浅井町）が2010年1月に長浜市に吸収合併後、これからを担う若者が中心となって行政に頼らず、税金に頼らず、地域のスポーツ振興・地域活性化のために、未来のオリンピック選手のために、地域住民の健康増進や体力向上のためにも50年・100年発展し続ける総合型地域スポーツクラブ＝奥スポを目指すクラブ。「2011年2月19日の設立を目指し、おくスポの啓発を兼ねて各種スポーツ教室やジュニアスポーツ教室、スポーツ競技大会などを開催。運営費の問題解決として、町行政主催の一大イベントであった「奥びわ湖健康マラソン」を、過去最高の2,300人の参加を得て、おくスポが主管で開催することができた。地元の中学生の参加者一人一人と笑顔と素直な対応は、まさしく地域手作りの地域をあげての大会を象徴するものであった。</p>		
佳作	タイトル	サンポート高松トライアスロン大会 ～瀬戸内国際体育祭～
	応募者	サンポート高松トライアスロン大会実行委員会（香川県高松市）
<p>作品の概要</p> <p>サンポート高松トライアスロン大会は、ふるさとを離れた若者が地元を活性化したいという思いで地元、県内・四国内に呼びかけて地域の市民・企業・行政との協働で実現にいたった全国的にも珍しい「都市型」のトライアスロン大会。実行委員会（20名で構成）の中身は完全に市民ボランティア。海園・田園・都市・世界を結ぶ、多島海での競演である。瀬戸内の自然環境の体感、大会に参加する多様な選手たちと市民との交流、そして参加者自身における自己能力への挑戦を目的とする事業である。それは、観光と交流人口を基盤とするサービス産業の振興、国籍や文化を超えた国際交流の促進、参加者及び市民の心と体の健康の促進といった効果を生むもの。大会は「筋肉とアートの混血化」＝トライアスロン大会まるごとアート作品にする、という世界初の試みに挑戦。2010年は、全国22都府県から235人の「鉄人」たちが出場し、美しい瀬戸内海の景観を楽しみながら、スイム0.75km、バイク20km、ラン5km、計25.75kmのコースを駆け抜けた。</p>		

佳作	タイトル 応募者	広島東洋カープ・プロ野球ウエスタンリーグ公式戦開催による地域活性化 総合型地域スポーツクラブどんぐりクラブ屋台村（広島県山県郡北広島町）
	<p>作品の概要</p> <p>広島県の北部に位置する北広島町の豊平地域は、人口が4,050人の小さな町。平成14年までは、旧豊平町（現北広島町）が独自で年1回、広島東洋カープ・プロ野球ウエスタンリーグ公式試合を運営していたが、財政難と町合併のために開催が困難となり中止の方向が示された。地域住民の落胆をみて、スポーツを通じ地域の絆や交流、発展を目標としている「どんぐりクラブ屋台村」が開催の継続を請け負った。開催費用は150万円。全て手作りで開催の準備を進め、無料であった試合観戦を運営協力金として1人300円を徴収、樽募金、協賛金、飲食バザー販売等を地元住民にお願いすることで運営経費の確保が可能になる。スタッフは全て住民。小学生は観客席でのゴミ拾いや樽募金のお願い、中学生は試合前日の球場設営から当日の練習の手伝い等。ボールドック・ミッキーの出演、球団のマスコットキャラクターの登場、試合開始前の選手サイン会の開催などより、観客数も開催毎に増え、去年は地域住民より多い約4,000名の観客を動員。今では観客も地域外が増え、「こんな田舎でもプロ野球ができる」と全国に発信していきたい。</p>	